

秋浜 実和さん

Miwa Akihama

会社員

1972年生まれ。石川県立羽咋高校から実践女子大学被服学科(現・生活環境学科)。衣料管理士や繊維製品品質管理士の資格を生かし、品質管理の仕事に携わる。現在、オリエンタルランド商品管理部勤務



在学中に取った資格で「夢の国」をサポート

能登で繊維業を営む家庭で生まれた私は、編み機のカチャカチャという音を子守唄代わりに育ちました。そうした環境もあったのでしょうか。被服を学びたいと思った私に、高校の先生や父の友人たちが実践女子大学を勧めてくれました。お子さんらが通っていたのです。ファッションデザインから品質管理まで、幅広く学ぶことが魅力でした。

大学では、平山順之先生や現学長の城島梁一郎先生の指導を受けました。実験や実習、レポート提出などが多く、中身も問われて大変でした。しかし、先生方に鍛えられたことが、社会人になって大いに役立ちました。

卒業時に衣料管理士の資格を取った私は、品質管理一筋で仕事をしてきました。今は東京デイズニールゾート内で販売される様々な雑貨の品質管理を担当。その多くは東アジアの国々で生産されるため、月に1度は海外の工場などに出向いています。旅行で行ったカンボジア・アンコールワットに魅せられ、カンボジア語を学び、現地の子どもたちに日本の絵本を翻訳して送る活動もしてきました。

海外の人々との交流では、語学だけでなく、現地の慣習や文化をしつかり学び、信頼関係を構築することが重要です。グローバル化が進む中、そんな思いを強くしています。



アンコールワット遺跡群の一つ、南大門入り口で友人たちと(中央が秋浜さん、2004年2月)



男女共同参画推進担当理事
短期大学部長
高瀬真理子教授

秋浜さんは、様々な衣料品に囲まれた環境から、品質管理に向かわれました。実践女子大学の被服学科(当時)で鍛えられたことにより、深く広く磨かれ、オリエンタルランドの社員として活躍されています。衣料からグッズ全体の品質管理へ、生産現場から世界へと視野が広がり、異文化理解や信頼の重要性を痛感しながら、人間的にもどんどん大きくなる秋浜さん。これぞ実践女子クオリティーです。